

- 01. INTRO
  - 02. Do It
  - 03. CIROC
  - 04. P-BOYZ
  - 05. GOOD and BAD
  - 06. On My Way
  - 07. すきにやる
  - 08. Get Back
  - 09. 湾岸 TWILIGHT NIGHT
  - 10. WAVY
  - 11. Hey Daisy
  - 12. Romantic Blue
  - 13. Sorry
  - 14. Eureka (feat. kojikoji)
  - 15. HERO
  - 16. ポロポロ
  - 17. DOWN
  - 18. オレンジ
  - 19. Good Memories
  - 20. 5'O'clock
- ENCORE**
- 01. See You Later
  - 02. YOKAZE



LIVE REPORT

8 / 5 thu. 大阪城ホール

変態紳士クラブ

延期を乗り越えて実現した  
地元・聖地での夢のステージ

ラッパー WILYWNKA (ウィリーウォンカ)、レゲエ・ディージェイ VIGORMAN (ビガーマン)、プロデューサー/トラックメーカー GeG (ジージ) というソロでも活躍する3人で2017年結成、まさに“(生物学的意の)変態ユニット”としてシーンをザワつかせてきた変態紳士クラブ。今年5月、YouTubeチャンネル【THE FIRST TAKE】や音楽番組【ミュージックステーション】への出演など全国区に知名度を高め、勢いに乗って地元の聖地、大阪城ホールでの初単独公演を行う…はずだった。が、コロナ禍の影響で延期に。WILYWNKA曰く「この時はかなり食らった」という。それを経て、実現したこの日。その想いとファンの期待も相まって、会場は歓喜と熱気に満ち溢れた。

ライブは、GeG率いる林拓也 (b)、山岸竜之介 (g)、Tatzma the Joyful (dr)、竹村仁 (key)、平畑徹也 (key)、しゅうまいカルテットらバンドの圧倒的な演奏によるイントロダクションでスタート。そこに「We are the 変態紳士クラブ in da building !」と叫びながら WILYWNKA と VIGORMAN が現れると、アッパーな『Do It』から『CIROC』『P-BOYZ』とタイトなチューンを畳み掛け、観客の熱量は初っ端からフルボルトに。

「去年1年悪いこともいっぱいあったと思う。その分、今日は最高な1日をメイクするために遊ぼうぜ」と WILYWNKA の呼びかけを合図に『GOOD and BAD』『On My Way』、「自分の人

生、誰にも舵取らせずに俺らと一緒に好きにやりましょう」という VIGORMAN の言葉を映す出世曲『すきにやる』と、自らの生き方やモットーを描いた楽曲を連投。等身大の言葉でリアルなライフスタイルを綴ったリックに心掴まれる。

続くゾーンでは、重厚なベースが腰に響く『Get Back』、アーバンなハウス曲『湾岸 TWILIGHT NIGHT』、色っぽい旋律が耳に残る『Hey Daisy』など、ジャンルレスぶりを見るナンバーを次々投下。WILYWNKA の秀逸なライミングや遊び心のあるフロー、VIGORMAN の卓越したワード&メロディセンスという個性の違う2MCの掛け合いに GeG のマナーを守った多彩なトラックと、3人の才能が混交する唯一無二の“ポップミュージック”が頭と体を刺激した。

中盤、「この前もやってもうて。謝る前に縁切られた」という GeG の個人的な出来事を曲にした“懺悔ソング”『Sorry』を感傷的に披露し終えると、ステージには kojikoji が！ 映画【EUREKA / 交響詩篇エウレカセブン ハイエボリューション】の主題歌を届け、会場をクールに癒やした。サブライズは続き、今回セットの中心となった6月発表の初フルアルバム『ZURUMUKE』のサイン入りアナログ盤が観客10名にプレゼントされるという垂涎ものの企画も。

そんなお楽しみを挟み、後半戦の口火を切ったのはキラー曲『HERO』。MC2人に煽られたオーディエンスのジャンプで城ホールが揺れたかと思うと、まだまだと

言わんばかりにプチ上げたハードコアな『ポロポロ』でさらなる熱狂へ。規制がなければ大合唱となったであろうアンセム『オレンジ』ではエモいムードで酔わせるなど縦横無尽に魅せる彼ら。そして、初ライブは観客が10人だったという苦い思い出もいつか良い思い出になると前向きに話し『Good Memories』をパフォーマンスした後は、過ぎていく楽しい時間への愛惜を綴った『5 O'clock』で本編のピリオドが打たれた。

アンコールでは、「こんな中卒の俺らが、やりたいことだけやってきて城ホールまで来ました」と改めて観客や周囲への感謝を伝え、オーラスは名曲『YOKAZE』をプレイ。一部で灯されたスマホのライトが最後には会場中に伝播し、鳥肌が立つほどの絶景を描き感動のフィナーレに。来年2月の東京・日本武道館単独公演の発表も、VIGORMAN は「俺ら全員関西(出身、在住)なんで、まずは大阪城ホールでやりたかった訳ですよ。今日がもし延期になって、これ(武道館)を先にやるのは俺ら的には道理に反してて」と吐露。そんな真摯な変態紳士クラブだからこそ紡ぐ次なる物語もしっかり見届けたい。

